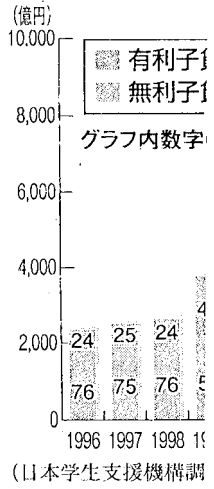
奨学

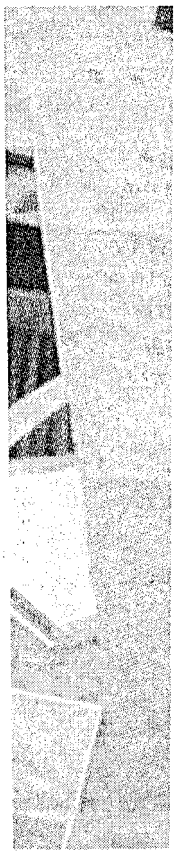
「教育をうける権利」にもとづいて、経済的な理由で学業をあきらめる若者をうまないための制度です。欧米では返す必要のない給付制が基本。学費が有料で給付制奨学金がない国はOECD加盟三十カ国のなかで日本、韓国、メキシコだけです。

すすむ奨
事業予算



（日本学生支援機構調

失業・低所得を理由の滞納が急増


非常勤講師の男性がうけとった「最終通知」

の見
望の
い事
す。
「大
あと
りし
退が
卒業

大麻と若者
立ち向かう人たち
＜上＞

慶応義塾、同志社、早稲田など私立大学生が大麻取締法違反容疑で逮捕される事件が相次いでいます。若者たちにまん延する薬物依存症の実態を追いました。

（菅野尚夫）

衝撃 わが子に限って

早稲田大学生が逮捕された翌日の十六日、茨城県桜川市にある雨引福祉センターで、茨城ダルク家族会に参加した依存症者の家族にたいするセミナーが開かれました。三十代から七十代の親たちが集まりました。

変ぼうに驚き

「わが子に限って」。そう息子や娘たちを見てきた親たち。大麻や覚せい剤に侵されて、心も体もボロボロに壊れていく子どもの変ぼうに驚き、「地獄のような苦しみ」を抱えています。

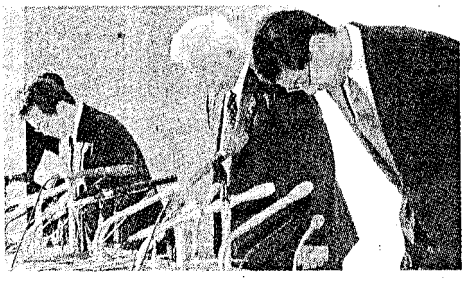
「マスコミは、有名大学の学生が逮捕されると大きく取り上げます。本質を取り違えています」。小学校の教師をしていた二女が覚せい剤取締法違反で逮捕された体験を語ったのは「団塊の世代」という母親です。

「だれもが大麻などの麻薬に手を出してもおかしくないほどまん延しています」と、「世間の大麻や覚せい剤など薬物依存症に対する認識の浅さ」を指摘しました。

二〇〇八年の『犯罪白書』（法務省）によると、麻薬取締法違反、大麻取締法違反などの検挙者数は、二千九百六十四人。〇一年以降増加傾向にあり、大麻取締法違反は二千三百七十五人となっています。これは薬物依存症者の氷山の一角に過ぎません。深刻なのは、三十歳未満の若者が六割以上を占めていることです。

ダルク

ダルク（DARC）　ドラッグ（DRUG＝薬物）のD、アディクション（ADDICTION＝のめりこむこと）のA、リハビリテーション（REHABILITATION＝回復）のR、センター（CENTER＝施設、建物）のCを組み合わせた造語。入寮し、同じ悩み（病気）を持つ仲間と協働して回復するためにこれまでと違った生き方をする練習の場です。自助グループや医療機関との連携を行っています。北海道から沖縄まで全国三十一カ所にあります。


学生の大麻取締法違反事件について記者会見し、陳謝する早稲田大学の野嶋栄一郎常任理事（中央）ら＝17日

裁判所の通知

前出の教師が逮捕されたのは、三十歳を過ぎてからでした。母親は、「被告〇〇は…」と、娘の罪名を書いた裁判所からきた通知で事件に巻き込まれたことを知りました。

「手塩にかけて育てた娘の変ぼう。娘ではない。まるで宇宙人。娘が覚せい剤などに負けるはずがない」と、そのときの衝撃を語ります。

「二女の元夫も慶応大学を出ています。元夫との関係で覚せい剤に手を出しました。薬物依存症者の家族の会の仲間と出会い、人生をもう一回やり直す思いで、勉強しています」

（つづく）

ひと

山での「突然死」を取材するライター

柏（かしわ）

それまで
た人が急に
に至る。予
る山岳遭難
ュメント山
と渓谷社）
危険因子
高血圧、高
喫煙、脱水
無理をしな
ない社会の
が、「なく